

令和7年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

令和7年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

| 学年 実施月日 | 生徒数 (人) | 平均正答率(%) | | 平均無解答率(%) | | 平均IRTスコア | |
|-------------|------------|----------|------|-----------|-----|----------|-----|
| | | 国語 | 数学 | 国語 | 数学 | 理科 | |
| 3年 4月17日 | 学校 | 225 | 54 | 49 | 7.4 | 11.5 | 494 |
| | 大阪市 | — | 52 | 46 | 6.8 | 11.2 | 489 |
| | 全国 | — | 54.3 | 48.3 | 6.7 | 10.6 | 503 |

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

| 学年 実施月日 | 生徒数 (人) | 平均点(点) | | | | | 平均無解答率(%) | | | | | |
|-------------|------------|--------|------|------|------|------|-----------|------|-----|------|------|-----|
| | | 国語 | 社会※ | 数学 | 理科※ | 英語 | 国語 | 社会※ | 数学 | 理科※ | 英語 | |
| 3年 9月2日 | 学校 | 223 | 67.8 | 55.0 | 57.0 | 49.1 | 65.9 | 4.6 | 5.5 | 11.3 | 9.7 | 4.0 |
| | 大阪市 | — | 64.8 | 51.5 | 54.3 | 46.5 | 54.4 | 6.1 | 5.8 | 11.1 | 9.4 | 6.5 |
| | 大阪府 | — | 64.2 | 51.2 | 53.9 | 46.0 | 53.2 | 6.8 | 6.5 | 12.1 | 11.0 | 7.4 |
| 2年 1月14日 | 学校 | 215 | 69.7 | 53.2 | 63.8 | 55.0 | 58.1 | 6.1 | 4.0 | 9.6 | 3.9 | 6.8 |
| | 大阪市 | — | 65.2 | 45.0 | 56.0 | 47.9 | 52.4 | 6.6 | 5.6 | 10.3 | 4.2 | 6.9 |
| | 大阪府 | — | 64.5 | 44.3 | 55.0 | 46.7 | 51.8 | 7.3 | 6.3 | 11.7 | 5.0 | 7.6 |
| 1年 1月14日 | 学校 | 247 | 72.6 | 70.8 | 66.1 | 76.5 | 73.3 | 5.7 | 1.3 | 4.3 | 1.9 | 3.0 |
| | 大阪市 | — | 63.3 | 58.3 | 57.6 | 63.0 | 66.5 | 9.1 | 3.0 | 7.6 | 3.7 | 4.1 |
| | 大阪府 | — | 63.1 | — | 56.7 | — | 65.2 | 10.2 | — | 8.8 | — | 4.9 |

※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択

※ 3年生の理科はB問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

| 学年 実施月日 | 生徒数 (人) | 読むこと 【リーディング】 | 聞くこと 【リスニング】 | 書くこと 【ライティング】 | 話すこと 【スピーキング】 | |
|--------------|------------|------------------|-----------------|------------------|------------------|-------|
| | | (スコア) | (スコア) | (スコア) | (スコア) | |
| 3年 10月20日 | 学校 | 207 | 137.7 | 126.4 | 170.9 | 110.4 |
| | 大阪市 | — | 117.4 | 110.2 | 146.4 | 98.4 |

4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

| 学年 | 生徒数 (人) | 握力 (kg) | 上体 起こし (数) | 長座 体前屈 (cm) | 反復 横とび (点) | 20m シャトル ラン (回) | 持久走 男子1500m 女子1000m (秒) | 50m走 (秒) | 立ち 幅とび (cm) | ハンドボール 投げ (m) | 体力 合計点 (点) |
|----------|------------|------------|------------------|-------------------|------------------|--------------------------|----------------------------------|-------------|-------------------|---------------------|------------------|
| | | | | | | | | | | | |
| 2年 男子 | 学校 | 32.45 | 28.88 | 48.58 | 54.08 | 74.63 | | 8.03 | 201.09 | 23.60 | 45.81 |
| | 大阪市 | 28.65 | 26.89 | 43.47 | 51.80 | 80.14 | | 8.06 | 195.02 | 20.28 | 41.69 |
| | 全国 | 28.95 | 26.09 | 45.12 | 51.64 | 78.82 | | 8.00 | 197.51 | 20.74 | 42.20 |
| 2年 女子 | 学校 | 24.68 | 23.30 | 48.31 | 45.77 | 49.26 | | 8.96 | 167.01 | 12.99 | 49.12 |
| | 大阪市 | 23.12 | 22.70 | 46.32 | 46.59 | 53.12 | | 9.03 | 166.76 | 12.20 | 48.14 |
| | 全国 | 23.15 | 21.70 | 46.99 | 45.74 | 50.60 | | 8.97 | 166.44 | 12.43 | 47.58 |

令和7年度 文の里中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び「読むこと」の領域において、平均正答率が全国・大阪市を上回っている。これは授業等を通じて読書活動を推進する中で、本に親しむ生徒が増加したことが一因と考えられる。しかし「書くこと」の領域において、平均正答率が全国・大阪市を下回っている。同じく無解答率も全国・大阪市よりも高い点が今後の課題である。

＜数学＞

「図形」及び「データの活用」の領域において、平均正答率が全国・大阪市を上回っている。これは授業等でICT機器を活用することで試行が容易となり、図形やデータへの理解が進み、探究活動が活発になったことが要因と考えられる。しかし多くの記述式の問題について、無解答率が全国平均を上回っている点が今後の課題である。

＜理科＞

全国・大阪市と比較して、IRTバンド5・4の割合が高い。しかし、反面IRTバンド2の割合も高い。また、記述式の問題については、国語・数学と同じく、平均正答率が全国・大阪市を下回っていて、無解答率が全国・大阪市を上回っている問題が多いことが今後の課題である。

教科を問わず記述式の問題に対する苦手意識が強いため、克服するための取り組みが必要である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

令和7年度中学生チャレンジテストにおいて、国語の平均点は、大阪市と比較してプラス3.0点、大阪府と比較してプラス3.6点、社会の平均点は、大阪市と比較してプラス3.5点、大阪府と比較してプラス3.8点、数学の平均点は、大阪市と比較してプラス2.7点、大阪府と比較してプラス3.1点、理科の平均点は、大阪市と比較してプラス2.6点、大阪府と比較してプラス3.1点、英語の平均点は、大阪市と比較してプラス11.5点、大阪府と比較してプラス12.7点と、各教科共に大阪市・大阪府の平均を大きく上回った。また、無解答率に関しても各教科共に大阪市・大阪府の平均よりも低く、基礎的・基本的な学力が十分に定着しているといえる。

＜課題＞

平均点は全教科共に大阪府の平均点を上回っているが、各設問の結果を確認すると、国語科の漢字の書きや漢文の読み方に関する問題のように、大阪府の正答率を下回っている設問も存在する。その大阪府の平均点を下回っている分野をはじめ、大阪府の平均点を上回っていても正答率が低い分野に関して復習を行うことによって、更なる基礎的・基本的な学力の定着と発展的な問題への対応力をつけていく必要がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)

＜成果＞

「読むこと」「聞くこと」「書くこと」「話すこと」の全項目に関して、大阪市と比較してプラス12ポイントからプラス24.5ポイントと大きく上回っている。また、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合も77.3%であり、大阪市平均の60.3%を大きく上回っていることから、英語力は十分に定着しているといえる。

＜課題＞

学校として、CEFR A1レベル相当以上の生徒の割合を80%以上にするを目標としているので、今後も英語力の伸長を図っていく。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査

＜成果＞

男女ともに握力、上体起こし、長座体前屈、ハンドボール投げ、立ち幅とびに関して、全国・大阪市と比較して上回っている。これは、日々の体育の授業の補強運動等の取り組みの成果であるといえる。

＜課題＞

50m走、シャトルランに関して、全国・大阪市と比較して下回っている。要因は様々考えられると思うが、更に丁寧な指導を行うことによる、基礎体力の向上と技術の向上を行っていく。

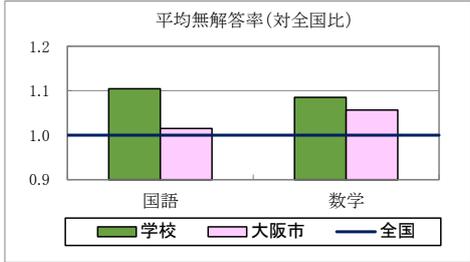
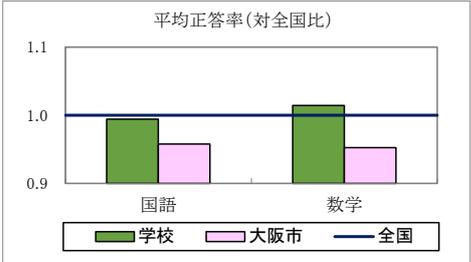
令和7年度 文の里中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

| | 平均正答率(%) | |
|-----|----------|------|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 54 | 49 |
| 大阪市 | 52 | 46 |
| 全国 | 54.3 | 48.3 |

| | 平均無解答率(%) | |
|-----|-----------|------|
| | 国語 | 数学 |
| 学校 | 7.4 | 11.5 |
| 大阪市 | 6.8 | 11.2 |
| 全国 | 6.7 | 10.6 |

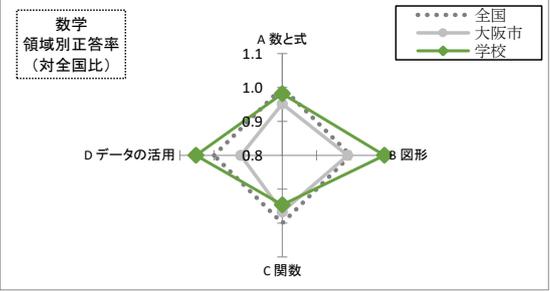
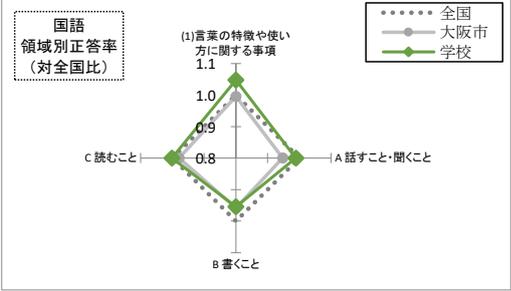
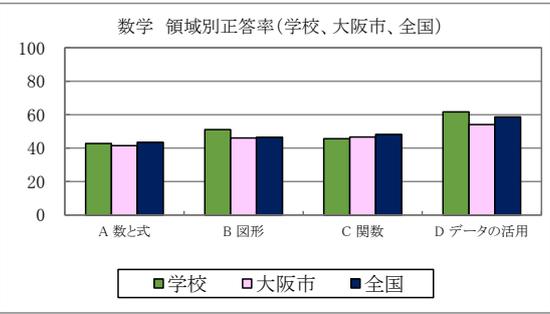
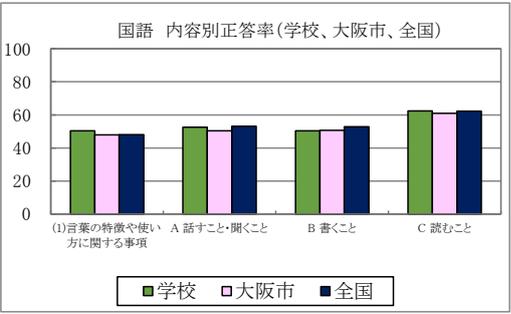


【 国 語 】

【 数 学 】

| 学習指導要領の内容 | 対象設問数(問) | 平均正答率(%) | | |
|------------------------|----------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| (1)言葉の特徴や使い方に 関する事項 | 2 | 50.4 | 47.9 | 48.1 |
| (2)情報の扱い方に 関する事項 | 0 | | | |
| (3)我が国の言語文化 に関する事項 | 0 | | | |
| A 話すこと・聞くこと | 4 | 52.6 | 50.4 | 53.2 |
| B 書くこと | 5 | 50.4 | 50.6 | 52.8 |
| C 読むこと | 3 | 62.4 | 61.0 | 62.3 |

| 学習指導要領の領域 | 対象設問数(問) | 平均正答率(%) | | |
|-----------|----------|----------|------|------|
| | | 学校 | 大阪市 | 全国 |
| A 数と式 | 5 | 42.7 | 41.4 | 43.5 |
| B 図形 | 4 | 51.1 | 46.1 | 46.5 |
| C 関数 | 3 | 45.6 | 46.6 | 48.2 |
| D データの活用 | 3 | 61.7 | 54.0 | 58.6 |

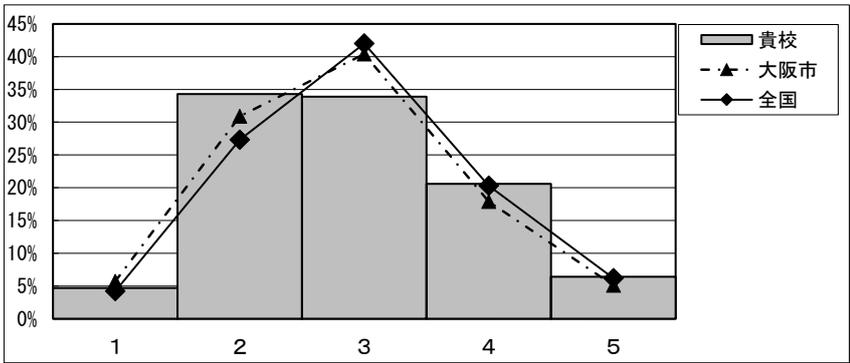
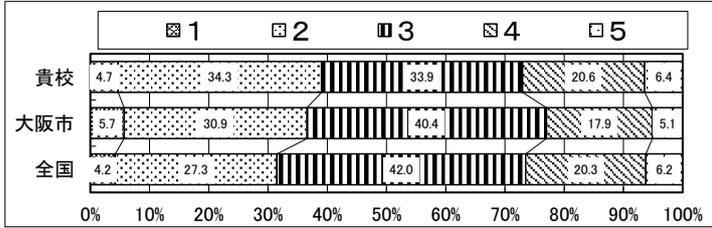


令和7年度 文の里中学校のあゆみ
 —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理科】

| | 平均IRTスコア |
|-----|----------|
| 学校 | 494 |
| 大阪市 | 489 |
| 全国 | 503 |



令和7年度 文の里中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

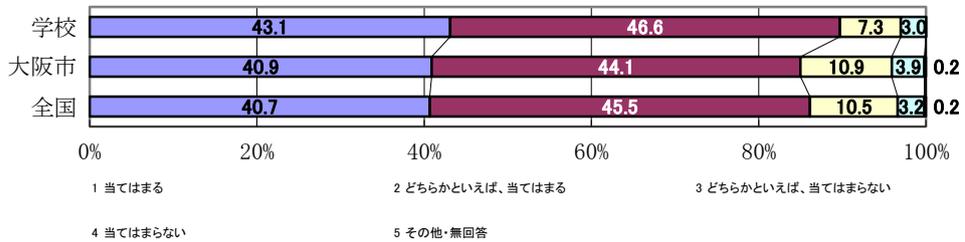
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

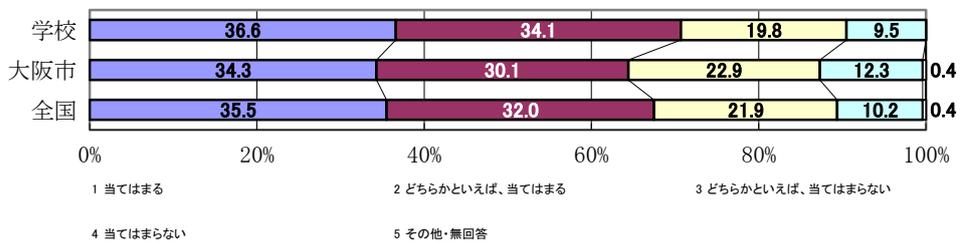
5

自分には、よいところがあると思いますか



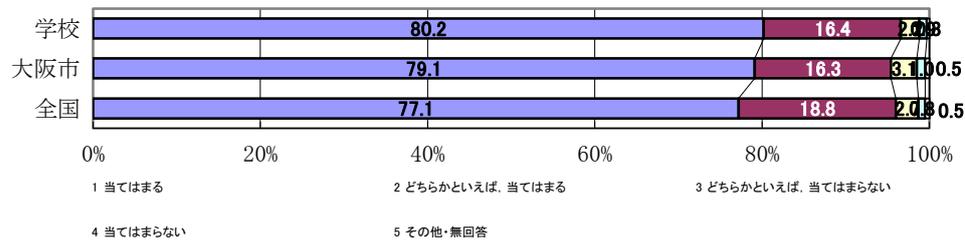
7

将来の夢や目標を持っていますか



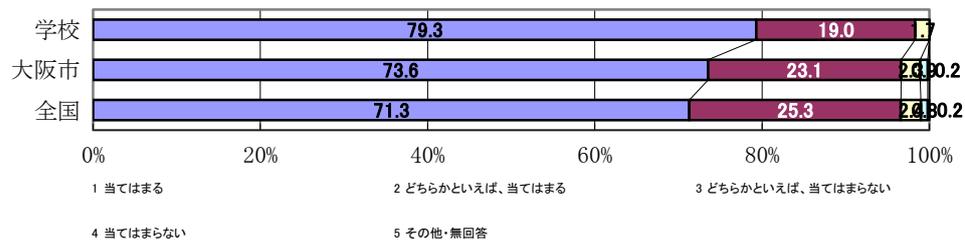
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いますか

